

ドローンを活用した鳥獣被害対策の負担軽減（かながわ鳥獣被害対策支援センター）

- 野生鳥獣による農作物の被害・対策状況を把握する集落環境調査において、ドローンによる空撮を活用。
- 集落の勉強会において、ドローンの撮影画像を用いることで、視覚的に集落全体の状況と問題点の把握が可能となり、効果的な対策が実現。

取組の経緯

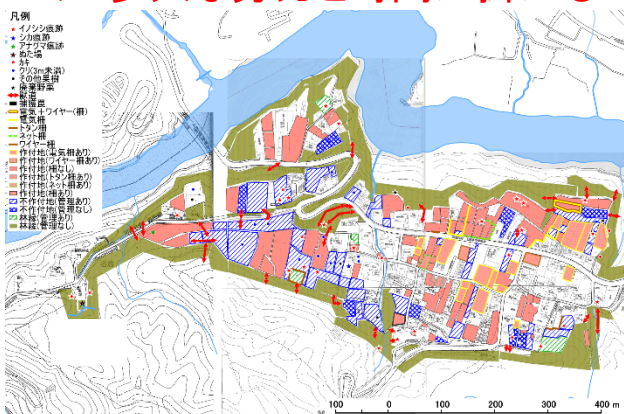
- 神奈川県では、平成29年度より高い専門性を持つ「かながわ鳥獣被害対策支援センター」を設置し、市町村と連携して効果的な鳥獣被害対策の提案、効果検証等を実施している。
- 鳥獣被害対策の強化に取り組もうとする地域の支援にあたっては、目視による集落環境調査を実施した上で対策を提案しているが、この調査の効率化に向けてドローンの活用を検討した。
- 検討の結果、従来の手法と比較し、労力軽減が図られるとともに、写真は地域全体の被害状況や土地利用等を一目で把握できるため、現地での対策に効果的であった。一方で、植生の多い時期で撮影ができない場合や、樹木等の障害物や撮影した画像が不鮮明な場合には、状況により調査時期の選定や目視調査による補完が必要。

従来の集落環境調査

- 現地踏査を行い、目視確認
- 被害農地の地図化

- ◆ 約3haの農地の場合
 - ・ 現地踏査に4時間程度
 - ・ 地図化作業に4時間程度

→ 多大な労力と時間が掛かる！



ドローンによる集落環境調査

- 予め飛行ルートを設定し、自動飛行による空撮
- 画像結合のソフトやアプリを使い、集落全体を画像化

- ◆ 約3haの農地の場合
 - ・ 空撮に10分程度
 - ・ 画像結合ソフトやアプリを使った地域全体の撮影画像の作成に2時間程度

→ 労力と時間の軽減！



空撮画像から
わかったこと
(主なもの)

- 【被害の様子】・イノシシの掘り起こし ・獣道 ・農作物の食害痕
- 【集落の様子】・作付けや土地利用の状況 ・農地以外の状況
- 【対策の様子】・防護柵や捕獲檻の設置状況